

12日目 7月28日

会 場： 松江市営野球場

第1試合		～決勝戦～																
T E A M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	R	H	E
浜 田	4	2	0	0	0	0	2	0	1							9	11	3
飯 南	0	4	0	0	0	0	0	0	0							4	11	2
(投手-捕手)																		
・ (浜)	波田→森井 - 網本																	
・ (飯)	三上→岩本 - 原→川島愁																	
(長 打)	(二塁打)						(三塁打)						(本塁打)					
・ (浜)							上田						岡					
・ (飯)																		
(審判) [球審] 林		[一塁] 下谷					[二塁] 城市					[三塁] 森島						
(チーム成績)																		
チーム	打	安	点	二	三	本	振	四	犠	盗	残	併	守備	失	暴	ボ	逸	打妨
(浜)	43	11	8	0	1	1	5	6	1	5	7	1		3	0	0	0	0
(飯)	43	11	3	0	0	0	6	5	1	1	12	0		2	0	0	0	0

### 「浜田、18年ぶりに甲子園へ！」

決勝戦は創部初の決勝戦に挑む飯南と、18年ぶりに甲子園を目指す浜田の2004年以来18年ぶりの公立校対決となった。前回の2004年の決勝戦では浜田が浜田商業を下している。飯南はここまで全5試合の多くを投げてきたエースの三上、浜田も全4試合に登板している波田が先発し、左右の県内屈指の速球投手の対決となった。

試合は1回表に浜田の猛攻で幕を開けた。失策に盗塁、内野ゴロを絡め1死3塁とし、3番波田がライトへの適時打を放ち先制点を挙げる。続く4番上田が安打で1死1・3塁と繋ぐと、5番の岡にも適時打が飛び出す。更に攻撃の手を緩めず1死満塁とし、7番大井海が二遊間を破る適時打を放ち、準決勝同様に相手投手の立ち上がりを攻め、一挙4得点を挙げ主導権を握った。飯南のエース三上は全36回を投げた影響からか疲労の色が見てとれた。飯南は2回から2番手岩本に継投する。浜田は岩本の立ち上がりも浜田が攻める。1死1塁から4番上田の右中間を破る適時3塁打で1点追加すると、内野ゴロの間に1点を加え点差を6点に広げる。

しかし、飯南も2回裏に意地を見せる。2本の安打と犠打で1死2・3塁とし、1番石田の投手後方へのポテポテの打球が適時打となり1点を返すと、四球で1死満塁となり、3番原がセンターへの適時打を放ち2点を返す。その後、相手守備の乱れる間に2点差に詰め寄ると、2死1・3塁から6番岩本が一二塁間を破る安打を放ち1点差に詰め寄ったと思われたが、浜田が打球が1塁走者に接触したとの抗議が認められ、流れが絶たれた。

その後は、飯南の岩本と3回から継投した浜田2番手、森井の両投手による締まった試合が続く。迎えた7回表、浜田は四死球と安打で1死満塁の好機を得ると、犠飛と相手捕手の悪送球で2点を加えると、9回表にも好調の主将岡がライトスタンドに飛び込む本塁打で1点を加え5点差に飯南を突き放した。反撃したい飯南は森井に苦しみながらも、7回裏に2死1・3塁、8回裏に1死1・3塁、9回裏に1死1・2塁と終盤に攻め続けたが得点が奪えず、浜田が9対4で飯南を下し、18年ぶりの甲子園出場を決めた。

浜田は、準々決勝の6回以降打線に火がついたことに加えて盗塁やエンドランといった足を絡めた攻撃が光った。惜しくも準優勝に終わった飯南も、1回戦から準決勝までは9人で戦い公立私立問わず接戦を制したこと、決勝戦では体調不良から本来のメンバーを大きく変えて戦う中でも、6点差を詰め寄る自力は素晴らしいものがあった。

